



青砥藤綱摸稟案後集卷之四

東都

曲亭馬琴編述

二夫川の拾遺

孝子のまづらひて孝とせば人をとて稱して孝とのふが向かへる。字として行ひ道を稱ひてからだにて功天小等し。家號立て名を後は揚りて父母を顯とめ孝の終とつふこそ。されば蚕屋善吉の憂苦の中入ときて或も鎌倉小漂泊し。或へば廻遊ふ流離ひしが到る所幸多くて事と成るべどもとくに刺守の厚意應じて舊里二丈へ立帰て村長うけりつく。又の為少私を雪め。そうちばゆ宿願と果て物語。上臺親子動じれり。その隙と窺ふて笑の中少私を隠し。耳と側目と翼と。察ひぞ。失ひ六階きと計較す。次ちあきやく猜せり。が。ふく。おまき。

さうく良人を諒り程よ妻をもづく禦きて。公文よりざまば。  
 鴻司昌九郎とりのつど。逢ゆゆれあふとありても。アソ女かくらへ  
 あそ過じしへ。上臺親子へまどく恨み。這奴表はれ賢人以  
 て。阿丑と離別あらし。豫てちむと情由あるやゑふ失を敷不。  
 婦を換んと。アガリ。又失ひる金錢をと。さあぐふ名をつけ。  
 運也私子よ與へ。娘を售ぐ。三かる。里人ホハ底音。一睡不。よ  
 人ううとおひして。只官よ這奴を薦め。村長小あらしへ。勿急はるが。  
 人をアラス。工政の如く。アソド御ふあらう。娘の安否を問ざる。下めの  
 言葉よ粗鄙て。阿丑をもう移くらふなり。這奴もとまんかくもわれ  
 國の字ゆぢ。ト。や先祖が村長ううとも。蘇令もぞ。運也。臺車の  
 小廝となりする。父鄉外人のあれどく。長よ志りへつふを。倘  
 唐々と目を送るべ。這奴が為ふ彈まで。うれ辛ため死えと。アソん生ふ  
 それが人を征す。後もや死へ征せらる。やせま。かくやせま。と運也。阿丑  
 りうとも。瞋恚向断る。死角文字よ。と。ひのめぐみ文字。づ。夜頭を  
 碎き。謀畧をねざしへ。鴻司又らふ。やくもあれどくも  
 あれ。世間の人あう。とて。權威よ附りのうれば。里人等ハ憲き。あ  
 一旦長を止むを。モ。多加ス。後ふりうく。あらきごと。舊よ復き。と。あ  
 あううつ。と。獨点頭密。アソ昌九郎。よ。と。アソ。死視。あは。と。れ。じて  
 親子アソ。アソ。多加ス。の陣所へ赴ます。常小郡の安否を。向。又その下隸  
 ち。よ。些の東西を贈る。と。暮月。よ。召び。よ。け。と。絶て。アソ。が。蔭事。を。せ  
 只。アソ。法華堂の本と。代。する。との。シ。悔う。げく。アソ。ち。セ。アソ。郡  
 こ。至。死。冥。情。ア。と。章。よ。憐。む。ア。う。ア。加。旗。善。吉。ハ。村。長。セ。う。ケ。リ。ア。

ても守ふ婿ぞ入ふ求めど。ハム更もあづられべ。矣賀へ来る事とせば。ちひて  
その下隸さんどふ故うく物を贈りておけと。馮司が村長ありけり。とれ  
う。つまく考へぬ。とおのりのものうち。さる程よ善吉へ年末のを送る。  
ぬまび衣々ぬ。とおのりのものうち。さる程よ善吉へ年末のを送る。  
とね山与熱がいふよとて。店を小廻こりよちりしつ。こまをとおのりに仕せ  
うが。とく彼外ほかよ赴たど。損益を勘かんふ。夫婦がござり賣うす。貰う  
仰ある。ざうむあざめれど。善吉ハ又のとをよ失ひ。田園を大くも貰う  
り。復一つ。是すと張ある紙にて。おまとの可否うへをと。敢問おとせ。まよび相摸まつ  
駕か。松山与熱と白眉と。尼寺御願の事と。漠まくて受うける恩おんよ茶ぢ。と  
豫よてらひ。の結果きさ。こまのを迷まわけ。ども村長よりての後のち。  
私わたくしは行ゆ。あがに。こうぞうも僧そうへそて。づぐらづぐらかひだかひだよまうり。  
曩なより。熱あつが赤坂あかさか。野上のうじょうへ移住いしゆ。且よやく。うく。被入ひりの恩  
惠めぐれを受うける。縁故えんご。よ。熱あつが志し。よ。おもしろく書写かくしやく。親おやのみ。後のち。  
只同胞ただひょうのわび。次つぎ。や齡頃おとこ。一子いっし。ざま。もろた。舍足わしだ。と。朝  
越あさのまひひと。す。と。歎たんく。べた。み。の。根ね。と。忘わ。き。の。り。が。ぞ。と。  
ともかくもこくら。て。和睦わつ睦の。よ。と。謀めぐり。る。この。の。年とし。外ほか。よ。が。き。ど。  
箇か様さま。この。故ゆゑ。と。て。面おもて。よ。演えん。に。華落はなめ。づ。と。兼あわ。り。と。趣き。あれ  
旅たび。よ。び。三さん。び。よ。る。び。く。と。町寧まちね。小毫こひ。か。り。へ。と。化粧けうげ。遣おくり  
る。ぬ。つ。び。三さん。び。よ。る。び。く。と。時とき。よ。弘安こうあん。八は。年とし。春はる。月つき。水みず。の。津解つないだ。と。人  
の。心こころ。弱柳わいりゆう。の。い。と。伸の。や。ふ。る。じ。比ひ。有あ。一いつ。日ひ。か。六ろく。生平せいへい。の。あ。と。早はや。船ふね  
新あら。と。る。と。と。だ。お。も。く。へ。く。え。に。し。る。善吉ぜんきち。こと。と。研くわり。と。研くわり。の。こ。う。ふ  
か。り。て。今いま。朝あさ。天あま。の。瞻仰せんぐう。と。吾われ。悔くや。と。景けい。と。取とり。と。研くわり。の。こ。う。ふ

まく。やまと發跡する。全く一つの福ある。かく思ひ  
スヤリと。福のあらがこそ。不思議の縁と信じてゐる。あらふむすが  
憂る。ある。告げどと。樂ゆえんや。あじきりと。叮嚀ふ。向をあらむ  
歎息。いふ。ませるものか。はと。疊々奇れた。變をえて。こうばかりなる  
よ。そのひとめ。告ねども。をやきええて。死と。聞せり。今は死へ匿ん。  
詫びこの曉の暮。どうよ。地方を何処とある。ゆども。ひとう曠野よ立在る。  
そんきが前面。川。わて。枕川と。棲木と。遠え。この川。りそ。水りそ。遠を  
盈る。ごくえや。おみる。鳥帽子。裝束。そ。ひと。追。死馬よ騎り。水乃  
上。よ馬を進め。北。う。南岸へ。抱。て。度さんと。う。水の急流。裂く。碎く。  
水二條よ流。る。兩箇の日輪。水中。う。肉と。異形。生。亦。水中。ふ。没。ると  
參。入。馬の毛。とも。水。脛。へ。沈。り。と。敵。と。そ。吐嗟と。叫ぶ。か。声。ふ。う。う

驚れて。掌。けり。す。やく。口。よ。せ。き。ども。胸。へ。鎖。よ。騒。ごく。瘡。ひ。ま。ご  
治。づ。つく。と。ど。ひ。あ。か。こ。と。五。年。あ。ま。う。前の。秋。か。へ。野。上の。松。山  
す。古。廟。の。中。小。假。寢。して。如。此。この。夢。と。く。う。と。そ。の。比。ひ。く。と。告。り。ゆ。  
そ。の。夢。と。又。この。夢。と。よ。似。る。ア。そ。あ。や。け。星。寝。お。家。艱。ゆ。今。又。り  
き。禍。の。あ。う。り。や。あ。る。と。只。管。ふ。と。こ。ゑ。が。う。こ。ゑ。か。り。ど。も。慰。め。難。て。向。と  
び。も。告。だ。や。と。お。ひ。け。り。と。り。べ。又。告。言。の。肩。根。と。よ。せ。て。歎。息。夏。八  
五。職。の。勞。き。ま。る。と。お。ある。へ。い。よ。れ。ど。彼。松。の。草。被。絆。一。夢。も  
正。義。あ。て。姨。と。阿。母。が。良。く。處。不。為。よ。う。つ。ま。ち。の。も。の。この。里。と。遠。く。離。る  
象。う。り。あ。う。る。ふ。今。赤。吾。妹。子。が。お。ま。ト。夢。と。見。と。つ。これ。も。い。よ。り。も  
され。ば。と。後。へ。と。た。る。衣。せ。せ。ビ。人。こ。ろ。う。れ。と。ハ。祈。ぬ。り。の。代。術。と。報。ふ。何。く  
嘗。て。ひ。く。う。か。ひ。く。う。ひ。そ。と。尉。ゆ。きて。す。や。く。小。瘡。押。る。す。と。放。べ



ひしより吾人の禍はあるものあり。身は犯して罪にて。みづから  
頼むべくも候べ。梓川のあきるる梓村の昔より名する神子の  
あるふあざや。彼外へひよれて養せ白子。その者凶と向んみ。疑ひ頃より  
解て身は係る禍のあつとも禦ぐ後盾よ。うるよりのみをばやへ。とりへ  
吾者うち点頭現らん。身が宜ふべく。あやそ物をあらんよう。彼如よめたそ  
爰を白に。祓禊が清潔さ。づ身ハ則六根清浄。きと所の願とく。  
成就せどどりとあけん。吾偏みぐくとあくべとて。身や立生んとそる程よ天  
俄頃よ絶陰て。雨ひて降そ。春の嵐ハ殊更よ面を向くべくもあべだ。  
翌時霽を待て。やさやくみて雲をあゆぬ朗るる日の新ハ左や西へ  
傾きそ。中晡よへ遠くを詠どり。とてとひこらゆる。そぐまくか止くこそ。  
又遠く生んとされば。ち六も外面うち瞻仰。日新頃にはくぬる小道乃  
ぬうりのひじく。暮ろびそこそほすくら。けよの日陽はこうへ。明日  
やれり。と禁まが。景をひそとうら掉て。梓村へ二里よ近う。ゆる。日  
暮くと。月夜うれび聲を。とて來んと回參もあり。木履の塵埃  
うち拂ひ。忙しく宿所を出で。只管小走る程よ醒井とをや過て。左を遙み  
えんう。今ぞ入る日の夕照よ春のき。村暮そぞて。花よ宿りとりそぞらん。  
武士とひさんど。従者をも俱せど。前向うある。行客あり。近く。あはれ  
笠を揚て。和菴も。景をひそぎや。と呼きみれて遠く。この行客をそん  
やまび。是則別人みだ。裏よ。景をひそぎ。化粧坂よあじ。比被空蟬が。嬌者  
ありけり。二階堂家の若黨よ。井脛え二と。叫び。のう。當下え二  
筆を脱て。別后の恙。あれせ御。御事。のう。裏よ。舊里へゆく。ぬと。ゆく。を。う  
ひうよ。在んと。圓ざしけ。再会するなど。い。が。景を小腰と折る。某をへ

りし。うそもや五年ぶりぬまご。世間うふ暇うくて。化粧坂を長  
ともう訊ひど。万禄あらうる友あつて。やくせく只ひど。行はへ計  
りふ。うるうきまゆと猪きびえ二もうち石改さんばとよ。相處あるま  
ご。五両の金を取ふざしよう。強顔やうり。空蝉も憎うだ歎待やう  
ゆ後の數うさうて。五年とひ去年の春。彼が年限満うべがふ三まで  
家よほひ婦とゆび良人とゆきて情愿へ果て。あつるよ被空蝉へ  
年僅五六の夏。化粧坂へ來みけまへ。舊里のゆづがまく。親同胞の  
名をあらむ。但獲身囊の中ふ。多賀の神社の神符ゆうて。産砂ろ  
かんすり。と包紙よ書つけまへ。正一。駕のゆ蹟うづて。ようて年未  
入よ向よ多賀の神社へ近江よあ。特よ名すれえ社みて。翁ふべくも  
あらどつぶ原未こづ舊里へ。近江の多賀もやあらんぞうん。ト。い  
被ぬみ赴きて。親同胞み環會。うそがゆ欲得。と空蝉が宿寐うまち  
歎けび。と堂てつづれた所れなが。彼が孝心痛くして。將てゆうがやとま  
うち東間の温泉み浴めとゆじて。主君ふ百日の暇をあらり。  
私と妻を携て。簾食と起程つ。脚湯おれ浴で。吾妹子が親ゆあまく  
けふ。入る。おらひひりうれ。繫兩み坐せうせん擔もす。妻と馬と乗  
うれば馬追ふとことぶらうやく。ワシよ先をどうきとむるふ。追従んとて  
喘もう。黒木の橋をうよると死。忍れ妻と失ひて。追ふともく竟  
ふ逢ふ。和庵今ある通路。馬とまて東とう。西へ赴く婦人とまざ  
と向つむひ拭りて額の汗をあら拭へば。まよて後方をえんぐり。ま  
くへあるやうでよ。馬座あらる人とよび。馬とまよしよりひるが。今須ろ  
驛そはねべぬよ。彼馬夫が柏原ま。うちこえてゆくとく。それからとく

居ゆべ。とりふをえ二ハ世もあひど。うれもあつとすう。こうゆ追け  
別まく途下うあるをよみが。醒井へと言はてめき。とりひりけ。  
在が柳シナノ小走去ミサコ。若走こをと目送りて。おひりども歎息カクシキ。仇シモ  
恋シモも縁シモあひが。なまく本意を遂る。うながす旅衣妻リョウイをば  
奪シモひよれりん彼馬夫カミハフこそぞろぬ。宿シモ所シモをも被人ヒトよ告シモ  
ちうと氣シモ添シモべ。まろひそだのせられへば。づべたうれいへざう。と  
迷憾シモ一シモげふひとうごそら。恩惠忘メヘミコモ。五シモ五シモの黄金カネあひだ。誠シモ智シモ。ぞくね  
曲シモの梓川シモ流シモよそみてやく水シモと人の仕方シモに定め。夕シモの雲シモのたすま。  
春シモの寒シモ堪シモ。風シモよ面シモとシモ。暮シモは間シモとシモかのがゆく。里シモを  
投シモてぞきり。案下シモ某生更シモ説上臺シモ馮司シモへ。景言シモを推倒シモ。  
弓子昌九郎シモ。村長シモよせをやとて。日シモよてを賀シモへもぐざるシモとく。

又ふ假託シモて郡司シモが下隸シモの甲乙シモへ物シモを餌シモうるシモどもふ利シモをアシシモ。人シモを  
愛シモする。衆シモの常情シモ。ふ善シモをすシモ。うづくシモね。公夏シモよあふざんシモ。  
多賀シモへやく。衣シモせを。竈シモふ媚シモ。とくとシモと却憎シモ。とくとシモもあれ。馮司シモ  
馮子シモと。管具シモ。僕シモ。そろく。郡司シモ。吹奉シモせ。好惡シモ忽シモ北シモ所シモを  
ひそて。郡司シモ。又吉シモ。と。うく。ぬりのと。もひり。あうれども。限シモつある  
錢シモ。す。限シモつある。欲シモふ充シモ。必シモ一。月シモ。期シモ。馮司シモ。きく。在シモや大  
園宅シモ。額シモとつ。合シモ。と。木シモと代シモ。名シモ。守シモ。對シモ。越度シモ。みゆ。郡司シモ  
村長シモと止シモれ。木シモと代シモ。名シモ。守シモ。對シモ。越度シモ。みゆ。郡司シモ  
弓子シモ。昌九郎シモ。木シモと代シモ。名シモ。守シモ。對シモ。越度シモ。みゆ。郡司シモ  
弓子シモ續シモ。ある。ふ。懃シモ。基シモ。城長シモ。よせ。と。おひも。へ。迂遠シモ。よ。やま。

旅らばとも。善吉をすすめ推倒され。熱湯を冷ます。彼も此も残る  
て。靴を隔て辯を搔き。湯をすりて熱る紙止が如く。勞して功見た不<sup>可</sup>  
能。さへ又彼若をす。曩裏より篠食み赴きて。夥の金紙護る紙袋を。  
かを以て日を送りん。某夫婦彼地へ赴き。一年あまり持つて。  
それ程の徳つたる。その金一下とび掌より戻る。手を数計らんと袋乃  
りのと物を取る。よう易い。さへあざや。と曰ふ。小脇をとりて密詰め。  
運也阿奴へり。もとまく。馮司へ額ふ額と掠て。ちやうとぞ。莞爾と笑。そ  
昌九郎が計策。縱縛て奇る。吁妙。これら是れ無事。一舉  
あて幸成。あまよやく捷経す。よく落合の準備せよとて。あのびくふ  
乃衰を整。さて吉日をとつ。昌九郎へ阿奴とおて。前途せんとぞ。往ふ  
この日へ朝より。猛々風雨烈き。小抑留せられて。往よこりわら。娶財籌る  
を待つ。時々中晡ふたりて。日ひ西ふる余り。けふとぞ。ひそらぬ。力のと  
ゆくといへど。あくまで。あふ前途と。とつよ馮司運せむ。す  
あり死禁めど。春の日。うね。目今。う。柏原まで。やくべ。人よあら  
せぬ起程。うふ。夕方えて宿所と。立。邵。是候宣す。さくと。のとを  
立す。昌九郎へ阿奴。うとも。ひくへ打拂て。背門のかづらう。さ  
ゆびこそ。こま。齎せ昌九郎。が。途袋を遺す。あふ死や。と。呴け。そ  
馮司へ。こま。死ぬもの。も。途袋の旅客の。あ。もう。かう。かう。の。な  
ゆく。の。う。ざ。遠く。じり。で。ゆび。と。やく。旅袋と。あ。隣も。遠く  
連せば。う。さ。生を腰刀の幕。や。の。大威。手卷鞆の。あ。井の。

驛を渡りて追ひてやく。さう往る程、昌九郎ハ婦を伴ひ起程。されば、まことに  
それど時移りて、宿所とまく。生くる丁つ。日向暮とまく。宿よ只の官も、夕と  
りをして、二十餘町きりて、醒井のある。梓川の河口すかと急坂  
下りきりつ。甲夜より生きて月なが。天を亦絶陰にて、朦朧とやく見  
えぬ。准僕の続ねとまく。火と打んとそ櫻と桜と、遙かに煙霞ひみく  
けり。このいふと恍然。阿丑ふ向へまよびと。原春この続ねと醒井を  
買へた。彼处へ送り来るやあらん。あべれがまく河原。うねば丈と借らん  
家へす。あん身へ且くこふ坐せり。で一きよきよあらく。瞬間よ来てあん。  
さて喘きつ。今まく踏へまく。阿丑ひまく野干王の夜川の  
風よ吹暴され。只佛と呼んで夫のゆゑに待るどふ。さくまく河原乃  
北方。荒男とおぞめだが。手拭ひて面と譽き。善西の楚とつけられ。

一個の女子ふ猿鑣と銜せり。河原を南へ。榻走て。砂の上へ撲地と推  
居りて酒みや喫得醉けん。舌のあらぬ声を立て。この劔妻ヶ轡の剛  
ヨモ。そもそも、ても屠所の羊飼動どとそ牽て。やくば頃日の間のようさ。  
打が負まれむと。出せばそれせん御みの催馬夫。輕尻追ひて日と遅れ。ハ  
皇天の人と數まだ。けの朝雨が媒約して乗して走りし玉とその催馬道へ  
外へて伴侶ある。夫がうきくをまじ。暮て物を胸算用。此ニまくへ  
よすれど。三年後より直のうる貨物。あらわづれとすまむと拿する。がひよ  
人を叫んす。りのるひりまぬ猿鑣。がもうれしと外みが。阿丑の女す。め  
せきて。おまく避んとむくど。崎と険と一條の河原へ隱る曲ゆる  
筈と醫して才と潛し。昌九郎がまく。かく。今まくとけじ。あまくへ  
男の件の女子と。引よるとしておりへども。右より。阿丑と偕とえて。叫びと

うち笑ひもとうねりて入ひも。額へ定ふ見え様ども。身長ひもと  
き白し。後の河原よりひとう。立在へ向てもある。色情を多よ手せ  
為り。さうどんごとみ郎と侯猩井。まうの欲落物。こよまく天より聞  
き。紙石をどん却崇とうけん。外まくとさうて幕。襟上すみと引  
廻べ。阿夕ハ吐嗟と叫び。振放さんと挣ども。鷺よ捉ミ水鳥の汀渚小  
羽。とく一生懸命。賊あつく。と叫ぶ。みぞ。奇みとそと。どうとくる。その  
隙よ件の女子へ逃んとさう紙遣り。もの。帶頭取て。りども。わく  
あれ昌九郎へ。廻袋を索う。火をも備て。ゆり。阿夕が領イ。賊  
あく。と叫ぶ。声よ驚きそ。う。照と続松と浪打際へ破着零と振舞。組ん  
とそれば荒男の足と飛して昌九郎が。脇と腰と破と蹴る。蹴られて。立ち  
仰ぎ。手と持て倒る。外へ喘ぐ。追暮走る。馮司の手をもつて。ま  
まよ。まわりとアんてけ。矢庭よ刀と引抜つ。階で。荒男を只  
一刀ふと丁と撃。刀尖狂ひとたれり。女子が胸五六す。乳の上りきて  
砍倒せ。云ともなりぬ末期の一匁。今ぞこの世とまる。鞭かけよ。墮  
呼吸絶。荒男がこの光景よ吼り狂ひて。沙と蹴立。令の綱と貨物を。  
結果よ。彼も此も。目よおみせん。と小石と解き。蟲のとく投げよ。と  
馮司もあとは禦難額を撲き。と侵侵と。轍とて。あり。ども。倒ま  
コノ子と躊躇。昌九郎ハナれよ。先とみて。引抜刃と杖やて。忽ち  
身を起し。跳蕙て。荒男が小髪の際一す。め。次れ。も擊。安  
荒男が墨丸と碎る可楚と。不意と有りて。碎れる。勿忙  
捨持をぬく。と昌九郎が。臥つ拂ふ。刀尖廻



馮司のこよ力を戮。起んとそるべ狀子して段々小破をせつ。胸  
刺さめて三人吹き息とつた。さて恙るれと放ひ。がく下の荒更ふ。  
つるみ火阿丑小使て馮司へ冗じる頸を搔く。あくび遠奴を勾う。  
光棍にて女すと掠奪なるなり。まる紙に生懐てその女子を殺す。  
後より一發學へうばひひそくとも罪限をぐにしりふせんと密語。  
阿丑もえぐく嘆息。せあておの勾引光棍が息どく小やくろぐ人  
教の料を残すよもあぐんよ。仰ひひそんむ死人と擅拗。誰く  
こゑと寔ふとモゴミ。ある人されこそ牽うれ。只速よおの姿を。  
走りすと。といそがせば昌九郎沈吟りく。つぶ大人仰とうらひゆふ某  
夫婦復よ行きて。遠く孫倉へくるとも。後日よこのゆうをあびせば。  
村長より頼みへねうへ令だろと助らんと冀ふとも生ぐけん。  
そくめかくても鷹の嘴。くまぞよ粗鄙ばく後とそも憑く。うぐ  
すや故郷へゆ。と見ゆ。日暮の巣とくくられ憎とく。ふ言ふと  
結果うぶ悔くもあがむ。毒を食ひ皿まで甜と。世の常言もつま  
あの時思按あうえててんのへどや。とつべ馮司へ小頭を傾け。汝が異見  
つるぞや。と聞く向の昌九郎へ人りやあると前席と透すがめて  
額をあ。親と妻とふ耳朶がゆるて矣。阿丑へまよ。馮司へ  
不とく感佩。今よむのぬ計畧みぐら。弓子も漢朝の孔明も  
名び。し汝達一旦矛と森まが埋木と。うふいふれど。焉者とふ  
教へねば。これ多賀敷をこらへて。世間ひうくもよは。うよと  
弓ひ弓さざよ。謀と沙ひ。とれてやがて。榜アマリ。勾引光棍  
頭髪を廻て首と笄と搔着。川へ夾と投棄。昌九郎も遠く

婦人の頸を打落して河へ推流し。死骸の衣を剥りて夫婦が  
夜も脱ぎえつ。阿丑が衣をぶら下さる。婦人の死骸はと殺せ昌見  
衣のとく引光棍の死骸は被せ。まありせず。と又子夫婦。更に  
兵頭密語。遊と一声激しくて親の家邊へ子へ東向へ水もつまむ  
梓川住候へ深きをばろ月。うらぬ夜の川浪は。朝までどりく  
けり。さる程は長良。梓村へ廻りよう。ひの外より暮つ。天より  
よ隣き河原をひそめり。うもひそめり急ぐれて死骸ふ礙と跌死つ。  
跳び下りて六七步。後傍を稍踏肩。仰のすんとくかつて。妙法夜乃  
事えり。それとなくねもねえぞとがゆたらも猶らして二まの  
宿所へきゆり。そもそもよつゆ。梓村の巫は彼愛をよし。なる。  
鳥帽子素袍の官服。馬よまで水中へ落す。足よ禍あざ。祥日浦  
王法の著明ふ比べべ。北より南の名を捨て。まえきて。沿岸を走る。  
北の黒く南へ赤。是ハ獄舎のつむぎ。驚き。余のあうどひ解んと  
き。うづみをこうむ。むかえ慎ひ。凶惡ふこそ。とおきぐち。つれ  
なと。おきの吹くゆ嘆息。夫婦面をあやつ。又ひよすゆうすけ。おひ  
ゆび衝あす。瘡を壓てひと擡が。彼神子が下りる。夢へ正義り。余  
又年翁よし翁も又。翁ド老をよひよる。年未吉祥のまわり。一  
こうるゆく。あらじ。あらぶらむをふあだ。山とつもつらよあだ。  
からん時へ神佛及二親の精靈の擁護を祈りてせめてまのこころ乃  
憂をとれ。水濁る。世の日も月も。減と照。一々。とくが。おまかせら  
点院。とくもあらすじ。翌ハつとて二親の墳墓へも。おまかせの  
神へも。おまかせ。理や百の災害も。ひそよ禦ぐ。おまかせ。おまかせ

力のうぶ八年前より天の作。尊とちひ締て人をみうみゆひと  
慰めり。慰めても物まうこら迷れど。まみゆみゆみゆの後も  
片あら。行燈の蓋をと立て。憂鬱をまが。置炬燵春の夜更よ寒く  
とも。今宵へこそとあめゆふ。ござくれをりよて。夫婦まろ様の耻と首尾  
あじて卧る。ひどしく睡まど。既よ曉方ちくらつて。ぬるも取ふ  
目睡一夕。日へもやたうたう紙あらば。もの音ふ受ふれて。夫婦遠く  
足を起。かひきあげ縁煩う。雨戸をまやくと樞うづら。さよまば庵の巻  
石ふ血を端著する草履の蹟あり。あづま車とも学び。聰く良人と  
ひびて。如げこと音うづ。若きも猪とも小竹縁ようつど。こと見をうそ眉を  
聰め現こうぬのふこそ。昨ハ甲夜ふ庭門え。来ぬる人ひきやと聞べ。  
かひきうちふう笑て。オひとう届守て。けりしきだ。戸をうきて。周ふ  
ざの脚を被ふ。意ふう入ふれ筋毛ど。のまよ空を且く尋思。さり  
あらむることあれ。昨夕と。梓村うづくまゆ。途のゆくも唐うづ。  
草履を買ふて。あまよ穿うえ。にて。酒肴をまわ。忍尤物よ疎はれど。  
ひと暗け。善惡をこうべ。そがやまき。ありし。原森江づ暗うけふる。  
斬る人の聲をありけん。毫ふ危きみやうし。とぞ。あてつけふ撃ふく  
がく。まうすつ。養子の下り。草履をまきて打せ。土のまくと。血  
つむ。現彼ぬうと。首まで。踏の程も遙うふ。血を踏べたすもあらず。  
云ともりふ。と。疑ひ惑ふ。良人の裳ふ。血をうつく。鮮血。妻へうち騒ぐ。  
胸をほめて袖をひく。それ齋せと。指まき。音言ことをえうつ。裳を  
褰てうち。更よ身をわざそあれ。郡司が夥兵五六人。庭門どう乱れべ。  
景氣。權石巻。素を被ふと聞く。咲嗟と駿き縁煩う。さうする

妻と禁て。是吉土よ額を著。牙先祀せる科と学を。人よびぶりを。どや。と  
りがせもあ。そだ左右。眼と瞳に声と喉。立。それ若吉人へあ。と  
おふべけと。睛を訴よ鬼神あり。明きとこそ。王法あり。昨夜桜川のわどに  
干て男女両個を砍殺す。その頸をかじる。癖者へ汝う。誰ももん教さる  
男子ハ則。舊の村長上臺鴻司。一子昌九郎。女子ハ則。その嫁丑といふ  
カのうるは。衣の色みて。手取る。女。貌の袖をどうた衰。腰を  
すきで。多々歎へ。詳よ詠よ。セレバ。吾们こと承り。犯人をもん焉。  
未明より。彼此を徘徊して。宿をばめて。裡のやうと。閑窓。卷不  
蹤血あり。汝が裳ふ鮮血を。見よう。あらげ。是間どて。ある。昌九郎も。五木を  
殺して。るの。汝の。腕を。まわせ。とりなまで。猛く。ひ解ん。ふも。吹。ば。そ。  
矢を。身ふ。裳紙被。良人ふ携。アそよ。と泣く。妻の。うつみ。重表衣。く  
おられて。言。吉。数回嘆息。一。よ。お。吉。儀祀せる罪。うけ。ど。裳ふ  
蹤。う。鮮血あれ。が。そ。も。や。く。も。一。朝。よ。ひ。と。も。ひ。釋。ば。う。ひ。ぞ。あ。る  
白。多。今。の。う。れ。あ。も。着。う。ぐ。姿。の。中。う。る。姿。の。せ。よ。難。く。一。ト。よ。び。学。を。ざる  
ベ。き。数。う。ぐ。とも。村長の妻。う。れ。お。亂。て。笑。き。ひ。そ。づ。運。場。今。生  
み。て。傍。ゆ。す。の。ま。ま。よ。野。上の。里。よ。身。を。寄。り。よ。愁。ね。の。在。れ。れ。  
又。戻。る。よ。も。あ。う。き。ん。げ。づ。の。母。の。亡。日。う。り。飯。茶。忘。き。り。ふ。と。か。う。付。あ  
亡。親。の。よ。ひ。迷。と。良。入。の。孝。い。誠。と。復。る。神。も。仏。も。夫。婦。が。う。よ。あ。れ。世

歎と。さうがひよ拂ひて。涙ふ哽て。回參むるせど。袖ふ袂よ。」  
やがて。呵責の咎口。ようね著そと蹴倒き。躁躊。られても。身と。心と。  
門。すゑあく柳髪。度の小松も。今更よ。そよたの。あうる千代の数。この春の  
日。と。猪。より。ふ良人の。余長。れと。祈りの。まよ。代られぞ。と。けぬ。縁縄。不  
つれ。や。お。後の。音耗。片折戸。ふ。身と倚り。とも朝霞。ひく。夫の背影。  
見えど。うるやうで。目送り。て。又。黯然。と泣よ。夕。が。そ。夥兵。ホ。善。を。ほ。  
つ。善。を。へ。赴き。穢て。丈。往所へ。引居。て。うの。瓶。を。報。氣。り。こそ。二。胸。の。す。を  
徑。て。郡。司。へ。ゆ。や。く。善。を。坪。の。内。よ。み。入。き。セ。昌九郎。阿。互。ホ。を。教。くる。  
律。の。意。蘗。と。よ。ぐ。ね。が。善。を。僅。よ。頬。を。擡。小。人。愚。齒。こ。と。よ。村。者。を。み。う。が。  
と。し。く。理。義。を。う。か。う。て。終。て。下。よ。び。法。度。を。犯。さ。ど。え。外。人。を。教。せ。一。と。く。  
ゆ。れ。ど。個。一。裳。よ。血。を。蹤。し。る。昨。タ。梓。村。と。暮。て。シ。る。さ。梓。川。の。上。ふ。く。  
ひ。づ。く。物。よ。蹤。さ。た。且。ど。じ。と。暗。け。と。祓。と。く。總。ぞ。今。え。ま。ひ。あ。れ。を。よ。る。  
跌。する。ハ。昌九郎。ホ。が。死。骸。みて。ひ。け。ん。や。と。べ。彼。ホ。と。教。くる。祀。人。へ。別。ふ  
あ。じ。これら。の。由。を。賢。察。あ。べ。守。の。恩。澤。私。の。大。幸。只。い。つ。と。び。め。め。を。  
作。ある。と。ち。る。く。額。を。つ。な。て。稟。み。ぞ。郡。司。へ。乞。を。候。も。果。ぞ。諸。膝。推。肉。  
丁。と。あ。く。も。や。され。癖。者。汝。辨。舌。を。ひ。う。て。班。く。と。も。陳。ざ。所。證。拂。く。  
入。を。教。く。る。み。の。證。拂。く。の。そ。の。裳。の。み。の。ん。や。汝。が。處。の。巻。石。ふ。も。血。を  
踏。着。く。る。足。蹠。あ。じ。と。見。今。夥。兵。ホ。が。報。起。る。車。の。類。を。猜。そ。る。ふ。裳。巻  
石。小。血。を。蹤。し。る。紙。汝。も。昨。夕。い。こ。ま。を。あ。だ。天。あ。そ。の。て。鮮。血。を。さん。く。  
妻。の。う。とも。ふ。惊。忙。洗。う。が。ほん。と。い。る。わ。げ。夥。兵。ホ。を。く。ば。も。う。く。や  
あ。ま。死。え。ん。ゆ。せ。へ。則。矢。の。罰。を。所。か。く。て。も。施。す。陳。ざ。や。と。居。長。高。く。責  
え。が。言。を。又。稟。を。す。鮮。血。を。證。拂。と。ま。が。ま。る。も。疑。い。理。う。う。れ。ど。

裳をりて入へ砍至を。但小人が腰刀と戻りて見えなかつた。おん疑ひへ  
釋ゆべ。加旗彼鷹司の小人が祖父の房かよ。鳴九郎と小人の再従弟  
おう。その妻阿丑の小人が棄妻かよ。あくも徑毎妻方々。姨遲也。今  
見よ。上墓鳴司が家すあり。がくまで係る親族す。や一見の恨あくよ。  
おつづく教さるべきや。素より恨をよもあく。於て被木を戻せ。聞せ  
あらぐお殿のとんどう。バ郡司の冷笑ひ。物じくも不ざふう。刃をさん  
とも。アダムンとも。それを汝よ做んや。且鳴司鳴九郎ホ。恨み一とほ  
いひがく。その禪つぞふ税まろせん件の鳴司へ懐て法華堂の本を  
代する科ふようて。裏裏よ村長を止まれ。れどこまを汝ふ比び。温順か  
守紙教の慈悲かよ。人を愛せう。ごくかれて里人余も。窮ふ汝を環みて。  
件の鳴司が薦のどく。村をたぐんとそそぐべ。汝あれとうがせくか  
く。

恨を含む。あま一ツ。又被刃とゆく。汝ふ嫁りて眞実みし。ハヤリの  
淫婦ふえくなれ。むきんよ離別せむれ。己エテ紙引。モ。鳴九郎不再嫁  
あて。支拂水魚の如ひとみせば。汝却てあま紙婚。ミ恨を含む。二ツ。  
さればこの故となりて。鳴司親子よ仇せんとて。その勤靜を懲窓ひ。昌是郎  
妻をおて。柏原へ赴き。暮て帰るを埋伏て。件の夫婦を砍殺し。之  
人をあくせ。そこで頸を隠せん。疑ひ。これら全く一條。ツ。權量。す。そ  
ひふあく。御。よ。夥。女。ホ。ガ。汝。を。搾。捕。する。紙報。知。せ。し。と。れ。又。急。事  
鳴司遅。セホ。セ。而。て。汝。が。う。の。代。説。を。し。事。情。と。尋。て。被。ホ。ダ。票。を  
ところ。是。の。如。この。癖。者。ア。レ。ア。ミ。て。皆。ざ。う。せ。ば。ア。レ。で。そ。の。寔。を。吐。く。れ  
そく。と。下。敵。そん。バ。承。う。と。意。う。夥。兵。ホ。モ。ア。ト。す。に。音。音。モ。祖。レ。く。  
俯。ユ。推。倒。レ。皆。暴。抗。て。百。ア。ミ。ア。ア。キ。ヌ。ホ。枝。レ。モ。哀。モ。ア。ニ。音。音。

は壞<sup>スル</sup>き肉爛<sup>ヤムカ</sup>き鮮<sup>ラク</sup>血液<sup>イモト</sup>と流<sup>ス</sup>きて背<sup>シメ</sup>を浸<sup>ヒテ</sup>。心神既<sup>ハ</sup>は惱亂<sup>カクルン</sup>して苦<sup>シ</sup>痛<sup>ム</sup>え<sup>ス</sup>。薄<sup>シ</sup>令<sup>ス</sup>の致<sup>ス</sup>を所<sup>シ</sup>経<sup>リ</sup>て<sup>ス</sup>びひ解<sup>ス</sup>とも。猩<sup>セミ</sup>極<sup>リ</sup>ナシ<sup>バ</sup>生<sup>ス</sup>。<sup>アガ</sup>愁<sup>シ</sup>あ<sup>ハ</sup>がひて永く苦惱<sup>カクナリ</sup>を受<sup>ス</sup>。死<sup>ニ</sup>とど<sup>ム</sup>定め。霸<sup>セミ</sup>野<sup>ノ</sup>邊<sup>ハ</sup>鳴<sup>キ</sup>魚<sup>シカ</sup>うるる<sup>ニ</sup>細<sup>シ</sup>な<sup>シ</sup>聲<sup>ヲ</sup>す。且<sup>ハ</sup>皆<sup>ス</sup>を止<sup>メ</sup>。烹<sup>ス</sup>使<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>。兵<sup>ヲ</sup>鷹<sup>テ</sup>引<sup>キ</sup>て水<sup>ヲ</sup>汲<sup>ム</sup>入<sup>ス</sup>。と<sup>ス</sup>す。往<sup>ス</sup>。往<sup>ス</sup>。身<sup>ヲ</sup>背<sup>チ</sup>て<sup>ス</sup>。翁<sup>モ</sup>もあ<sup>ハ</sup>は。未<sup>だ</sup>烹<sup>ス</sup>せ。責<sup>ム</sup>して。若<sup>シ</sup>吉<sup>ヤ</sup>く死<sup>ニ</sup>。或<sup>シ</sup>埋<sup>ム</sup>。梓<sup>シタケ</sup>川<sup>ノ</sup>上<sup>ヨ</sup>。件<sup>の</sup>夫婦<sup>ヲ</sup>小<sup>人</sup>ハ阿<sup>サ</sup>昌<sup>九</sup>郎<sup>ヲ</sup>恨<sup>ム</sup>。やうてその<sup>シ</sup>を死<sup>ニ</sup>埋<sup>ム</sup>。梓<sup>シタケ</sup>川<sup>ノ</sup>上<sup>ヨ</sup>。件<sup>の</sup>夫婦<sup>ヲ</sup>砍<sup>ス</sup>。教<sup>ス</sup>。頸<sup>ヲ</sup>川<sup>ヘ</sup>投<sup>ス</sup>。全<sup>て</sup>擁<sup>ス</sup>。ゆひた。と<sup>ス</sup>。又<sup>ス</sup>郡<sup>司</sup>へうら立<sup>ス</sup>。さのあん<sup>。</sup>さこそあ<sup>ハ</sup>り。馮<sup>司</sup>お<sup>が</sup>すまに不<sup>ト</sup>憲<sup>ス</sup>。待<sup>合</sup>と<sup>ス</sup>。ボ<sup>ス</sup>を名<sup>レ</sup>む。と<sup>ス</sup>。馮<sup>司</sup>と遲<sup>也</sup>と召<sup>ス</sup>。若<sup>シ</sup>吉<sup>ヤ</sup>く首伏<sup>ス</sup>。首<sup>ヲ</sup>詫<sup>ス</sup>。詫<sup>ス</sup>。汝<sup>ホ</sup>が猜<sup>ス</sup>も承<sup>ム</sup>。やぞうもよ<sup>ハ</sup>じ。馮<sup>司</sup>いよもかこの年<sup>來</sup>村長<sup>ヲ</sup>りしりひゆ<sup>ス</sup>。ひと應<sup>リ</sup>寧寧<sup>ス</sup>。誠<sup>ニ</sup>歎<sup>ム</sup>。斷<sup>ス</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>ス</sup>。づぞふ守<sup>ス</sup>。變<sup>ス</sup>えあ<sup>ハ</sup>。是<sup>モ</sup>遠<sup>キ</sup>。首<sup>ヲ</sup>刎<sup>ス</sup>。死<sup>リ</sup>の<sup>シ</sup>。この者<sup>ヲ</sup>うる<sup>シ</sup>。と<sup>リ</sup>べ。馮<sup>司</sup>の額<sup>ヲ</sup>著<sup>ス</sup>。いともヤ<sup>ハ</sup>て。威<sup>ヲ</sup>芳<sup>ム</sup>よう<sup>テ</sup>。ナニモ<sup>シ</sup>。子<sup>の</sup>う<sup>ち</sup>が乳<sup>ヲ</sup>獲<sup>ス</sup>。裏<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>の<sup>シ</sup>。喜<sup>び</sup>よ<sup>ハ</sup>。と<sup>り</sup>く<sup>テ</sup>。若<sup>シ</sup>吉<sup>ヤ</sup>く信<sup>ス</sup>。世<sup>ふ</sup>の罕<sup>シ</sup>る大<sup>シ</sup>物<sup>ヲ</sup>。理<sup>貴</sup>ん<sup>ハ</sup>す<sup>ミ</sup>益<sup>シ</sup>あり<sup>ス</sup>。汝<sup>ホ</sup>が天<sup>空</sup>ニ<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>を<sup>し</sup>て。あり<sup>ス</sup>。の<sup>シ</sup>よ<sup>つ</sup>た。ワ<sup>タ</sup>落<sup>ス</sup>。と<sup>シ</sup>ま<sup>リ</sup>。後<sup>ノ</sup>村長<sup>ヲ</sup>りしりひゆ<sup>ス</sup>。面<sup>ヲ</sup>背<sup>物</sup>り<sup>ス</sup>。や<sup>ハ</sup>身<sup>を</sup>う<sup>れ</sup>しも昌<sup>九</sup>郎<sup>ホ</sup>を<sup>殺</sup>す。ひどうせ<sup>ヲ</sup>立<sup>ス</sup>。計<sup>ス</sup>拔<sup>ク</sup>。愚<sup>ニ</sup>と<sup>ス</sup>。老<sup>テ</sup>の後<sup>ノ</sup>一<sup>事</sup>。嫁<sup>ヲ</sup>之<sup>ニ</sup>小<sup>妻</sup>。怒<sup>ハ</sup>根<sup>骨</sup>を<sup>碎</sup>。醢<sup>ス</sup>。も<sup>の</sup>と<sup>ス</sup>。能<sup>リ</sup>。ざ<sup>の</sup>あ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>拳<sup>ヲ</sup>擦<sup>ス</sup>。齒<sup>ヲ</sup>切<sup>ス</sup>。ひだり<sup>テ</sup>夫<sup>の</sup>後<sup>方</sup>。遅<sup>也</sup>。遲<sup>也</sup>。妻<sup>ヲ</sup>理<sup>ス</sup>。武<sup>ヒ</sup>。住<sup>ハ</sup>る母<sup>子</sup>の如<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>世<sup>の人</sup>へ<sup>シ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ス</sup>。和<sup>ミ</sup>主<sup>ハ</sup>る<sup>シ</sup>の仇<sup>人</sup>。娘<sup>ヲ</sup>妻<sup>ス</sup>。理<sup>ス</sup>。遂<sup>シ</sup>ても<sup>シ</sup>飽<sup>ニ</sup>。曲<sup>ハ</sup>梓<sup>シタケ</sup>川<sup>ノ</sup>。その夜<sup>ハ</sup>暗<sup>ニ</sup>。女<sup>ヲ</sup>う<sup>ま</sup>。娘<sup>ヲ</sup>殺<sup>ス</sup>。怨<sup>ム</sup>。數<sup>ス</sup>。物<sup>ヲ</sup>と<sup>ス</sup>。残<sup>ス</sup>。老<sup>テ</sup>が<sup>シ</sup>難<sup>シ</sup>。便<sup>シ</sup>著<sup>ス</sup>。アハ

憎一形は。どよそこ。よりふ愁ぶれだ。若者ひひと低て。一まゆの涙つむ。その先を  
郡司へ夥兵ふよ告。吉紙立にして。處へく。重死獄。令よ怒ふ。鴻司巡也。  
夫の暇をとせば。老賊毒婦。意中ふ謀。そやうぬと。苦絶。時。二天  
宿所へゆく。案下某生再説。かどき。その日。おひもかけど。さす。因。生十  
日。只泣流そ。すぐ。速く。野上へ消息。手と惣よ夏の花を。を  
す。翁。あらわ。かども。が。財主。鄰人。後悔。憚りて。天窓の蜂を捕ふ。の。終く  
入。妨め。來ど。やれて。告。ふ。ひと  
す。惄人。と。この。べこ。野上へ。告。す。もの。けと。吾。備みづ。と。見。た  
やう。と。ひ。定め。その。夜。立。立。あ。し。晝。の。水。と。泣。が。ソ。折。離。て。  
つ。良人の。彦。神。よ。仏。よ。亡。親の。擁。護。と。祈。と。が。取。れ。る。を。う。り。来。き  
如。月の。梅。う。ら。と。夫。婦。が。運。を。ゆ。る。が。用。り。ま。と。念。ど。戒。ぞ。う。れ。る。

かじ。程よ。天。ひ。日。そ。ひ。と。ひ。ま。う。疲。勞。已。しき。か。あ。き。且。く。内。入。つ。そ。更。不  
の。ぎ。野。上。へ。や。く。ん。と。て。准。備。と。と。る。往。よ。頻。よ。い。と。放。く。り。の。あり。距。と。向。べ。与。熟  
り。珍。審。ぬ。て。あ。う。う。か。と。聞。て。入。ま。り。と。答。る。声。ふ。憂。う。こ。だ。り。も。六。八。慌  
忙。つ。走。り。出。て。戸。を。あ。く。ま。べ。と。や。く。旅。客。む。う。も。ふ。炉。刃。よ。世。と。下。て。  
ち。ち。よ。對。ひ。か。く。身。の。名。死。體。を。吹。け。ん。お。ま。ハ。り。が。矛。立。ま。す。あ。舊。主。の。す。  
化。狂。坂。の。自。眉。と。圓。胞。の。ひ。も。志。う。く。れ。と。食。ざ。る。底。よ。此。年。外。後。く。音。統  
き。せ。う。け。ふ。彼。も。齡。頃。で。見。ま。り。じ。く。ら。ふ。わ。若。す。想。切。よ。御。書。の。て  
凍。し。く。べ。白。眉。俄。頃。よ。ら。ひ。ま。う。そ。ろ。く。と。彷。未。つ。疎。遠。と。勑。解。ま。ぐ。憎。目  
ら。が。ぞ。彼。も。親。の。迷。體。る。う。と。や。河。井。の。長。く。う。と。も。せ。よ。絶。て。う。見。業  
も。わ。く。今。茲。は。又。母。の。遠。忌。よ。當。ま。べ。勤。當。と。や。ほ。う。と。う。と。お。家。夫  
娘。も。あ。へ。せ。ん。と。て。未。解。う。宿。所。を。知。て。外。周。の。え。せ。だ。づ。じ。か。ま。う。れ。ざ



疲勞こう。とりひつ膝とうら崩せば白眉の長うら微笑。二十年來の  
罪と歸て舍宅不居すも見事が良人のまことに戒めしるを以媒妁。吾吉  
と二家ふ在りど。又まへ面色も常あるべし物を以てげのみ切ゆる。  
恥じてかて仰り。娘夫あらびいゆひや。と流石元街小姓紙くられど。  
かく猜せ一家の難ちぬき忽だ酸鼻。若者うが因縁。夏の趣如此。三  
告れどよ愁の向眉の果累く瘦きえせど。まづく嘆息。一ノアリ。  
且して松下よ愁へ火祭りも。腰よ指揮の爲伴と致る。若者うが  
人を教さん。全く冤枉うけす。鮮血と嘗衣ふ腰うれば疑そも理アリ。  
殊よ彼馮司ホヘ腹うれりのうれび。づくの仇と定ふをも。憎一とくす  
若者言ふ罪ひくまんとぞるかもあまば。づく田舎ふ人とすれがからまもとぞ  
辨ちく程ど向眉へ藻食か。うづく姿する事あつる。若者歎惜ひ歩き。  
方後やあ。と密せふ向眉へ向眉小膝をとく。あづかへと千金の手入。市少  
死すとゆことあり。諭ゆこととて不僵む。忽だ泣せり。死て郡司の役をや。  
當國の守佐木殿在鎌食る。年ハ彼家のころ刀耕原某が楼上ふ。ま  
さがく。うづく姿す。若者歎惜ひ歩き。あづかへ長とあまどとくえゆふ。うづ  
あづかへ是景良報。杖ひ歩を承はり。蛇があじて。某此度若者  
贈すとよぶ。あづかへ腰圓る金十両す。路費也又あまうあれ。こまくせり。  
事をうるべ。その方後。うづく。うづく。うづく。うづく。  
を得そ。ひとのりへあまぞ。うづくの款待。時後。かまくせり。  
うづく。うづく。うづく。うづく。うづく。うづく。  
佐木の家隸。郡司が私率すんと。うづく。  
うづく。うづく。

昌九郎ホと教せよ。言を既に首伏て。罪藉入定す。ま助  
さもあら種ど獄舎飯を送る。妻子の乞ふる。じとて。やうこのことであ  
らしごと懲白肩へきりぬ。おちよ縁由を告げし次の日飯を齎して三人  
多賀の獄舎を赴き。白肩又獄卒ホふ物が許つとせじ。遂に吾をこゝに面  
向む。てわらう。痛い。ひねる。吾を立。日をば往經。獄舎のときも。若の養小  
いろをう。ひがれと  
血色衰へ日暮よ疎き。ととこへ。ひひくろくと骨立て消えん。君の王の猪や。  
要時かう。繋ぎてさうの稱名。弥陀より。御念の外化ゆるを。今をうち  
ども妻男。ひりやけぞ相撲る。花生三筋。筋はくらふ。とぞう。ふほ  
はくら。ひくら。骨立。消えん。君の王の猪や。  
疾き。こそ。達び。どくら。あら。向ん。とおひ。とも胸ふくら。をつや。おはだ。阿と  
まう。倒さんとて。やうやく。ふ獄舎の檻子。驚く。さくと。立り。妻の鏡よ  
叫び。倒さんとて。やうやく。ふ獄舎の檻子。驚く。さくと。立り。妻の鏡よ  
狂ふ。もやと。ひ。彼も。痛しけど。よめへこうと。慰ふ。おちとく。門  
殿。彼育昌首とくせん。や。おわゆ。傍よ入る。くみ。が。そを。死。死慰め。此度  
金身。内臓が化粧坂。う。隋本。う。且。と。が。助。と。乃。て。辛く。郡司の辯を  
受息の内なる。對面する。対の。姫。ちらも。な。く。告。れ。が。長。ひ。足。と。居。う。う。二  
年未遠離ア。兄が笑顔とくらみ。誠。す。て。人。よ。及。と。吾。吉。和。殿。う  
賜され。一昨の月野上へ着て。足をくどきの。未明。よ。舍見り。うとも  
二丈川へ。いたて。向が不慮の灾難。ゆふり。る。の。物。忘。や。ま。で。ふ。下。び  
鶴。下。さ。び。の。憂。和殿の妻女と見よ。葱と。な。く。未明。よ。舍見り。うとも  
さやく。寝。宣。と。り。親族朋友の。許。され。ぬ。獄舎の。門。や。そ。輒。見。て。物。ひ  
とも。過。せ。う。う。猪。ひ。婦。と。く。ら。し。只。何。の。も。今。の。物。種。ち。ハ。出。く。ま  
黄金佛の。利。生。と。り。て。凶。赦。ひ。と。く。ご。み。ど。り。が。言。告。げ。と。模。代。社。詔。す  
あり。と。だ。果。敢。と。お。死。体。を。せ。み。よ。厚く。お。せ。あ。ひ。る。ま。恩。要。時。も

おおきい段落の本居宣長の著書である。本文は、死後も心を守るために執念深く親族に勧められた内容である。

原文：

おおきいとどせの經營より難きも。再會をうやまけとが。嗚呼がまくとも  
同胞の和順のうなづきせふ。かく速よあらひ。おんご操目定て。餘りくそ  
せん。加旃某が必死を放ひたるを。財帛を喪ひしる。余ふあるを  
有がく。言葉よ速も竭されど。もうれんじて罪よ死する。過せら  
思業うぐくへ人力をりて故のかて。ト。又黄金佛の利生をりて。首を  
続るるあつても。執念深くに親族。阿彌冕九郎と教せり。おもね  
衣と乾す。八十九の上妻をすら。生延とも仰うせん。大覺室  
死るとも。廣よ犯人獲覚て汚名と附するとなあら。終て恨へゆひと。と難  
い臨て死をきし。言の繁縝潔き。圓答ふ長の見与れと同と浑う。感  
涙と坐ふ拭ひぬるあぞ。むちくのよ。泣沈と死と極めもひへ。男魂なり。  
べきど。下めうらあらが。人が教へゆると。どうそり。遍も陳ト  
おの内宣ひ。その日より。懷まざる四日。脅の終日袂と絞り。夜も  
通宵垢離と執り。或ハ神垣佛場。百度の縉も搜渴。せうぬまでも願  
言の叶と祈り。誰が爲ぞ。背門の桔木は常ふゆ。鳥の声を吹く毎ふ。  
却やもゆく。死ぬぐる吉備やづ。おひやとて死ぬ。まふ死ねば  
こそけよ。おひよもん。教免のとれをすうだく。おねねふと白眉の両側の  
入ふうち。氣つたと。宣ひそ。やけに時よ女房のひの申ひのまん。  
とひやくまゐる。どうぞ口説つ。死體が。若言笑て改を掉り。  
もううのうの宣ふよ。裳へ鮮血と躍れ。昌九郎本を殺せり。の。お  
みわくぞ。まもろで誰うのまん。もうめ教り。親族。奴をも  
りの死のう。おひよもん。ひよんと。とくとくひよく黒を  
萼ふ無す。日月城と照らす。人と教を教せ。と。まほせよ。も助り

りん過世の罪障滅せど。阿責と忍びて陳る。青あまれん  
一定死とべ物をぬつてみだ。ひと苦しき獄舎のをもひ。首ふのをく  
阿鼻焦熱或へ叫喚大叫喚の地獄へ宴ふ外あるべ。只ぞ一ノ日。  
をく首と刎よて難苦紙助けひ孫と。こゝろ仰ぐ就鳥の山佛乃  
利益と念するの。歎うが後世の障とみしん。物をみゆうせうひそ。脚  
蹴すれ述懐み。かくやつ泣沈と松ふよ想も白眉も。理ううとひ  
うれ。額ふ鼻とうちむわ。獄卒坐りて來りて眼と睡り声とみ立姿本  
飯と餌う来て。おどそ尻の脅りくる。そや退却すと。比ぶれて。与え白眉左右  
よう。伏沈ひむ六と扶接獄舎の内を。そや取く。婆婆と冥上の辞別竭ぬ  
涙の血盆よ。刀林々くして。ゆうに三人六道の辻々凶き鳥の声。人をもんぬ  
のらり。畜生道うと。浅ゆく。參路とたゞる。おせり。まる程不  
与想白眉へ。おとと技て二夫川村立ぬ。又こよぐふ商旅をも。一。  
とく小苦ちが助命のと。頼んゆ。多々駆けよう外ふ。ほいくびも。  
彼主従ふひひうて。物十倍よ進。せんこの外ふす。ほくとて。白眉へ路費の  
金錢大々く。懷ふ被つ。その曉昏ふ。又多々駆へやうと。相摸うねそ  
外うじ従者へ。野上ふのこ。老ひと。老人ひと。彼怒。やれ。暮うがこう  
りと。うなふ。与想のス。りうそりふ。もくぐやと。ひ。が。か。六。ハ。嚮。ふ。ぬ。よ。  
さふぬ。づふ。惱る。痞。又殊更ふ苦。と。そ。夜。う。被。を。卧。よ。れ。ば。あ。ま。る。又  
見放ち。かくして。と。想。や。そ。が。や。く。ま。ふ。圓。向。眉。の。こ。遣。く。く。ふ。の。を。え  
馮司。遲。セ。ホ。キ。ス。カ。ム。小。苦。吉。紙。隨。きて。縄。よ。錆。び。這。奴。ク。テ。首。と  
刎。と。お。と。ん。市。ふ。棄。よ。く。と。毎。日。み。委。契。の。申。明。亭。ふ。起。き。と。締。の。為  
併。王。観。ふ。よ。松。づ。と。想。と。そ。れ。が。分。ふ。化。程。坂。あ。る。向。眉。と。く。ス。リ。の。相。待。り。て。

ノド。主従よ。苞苴。夥進し。而び。則若吉が死刑を緩。剣の妻子  
ふ獄舎へり。而て對面。とる。の如。并え。と。併せて。大は。撃ち。丸鏡の  
妙。う。の。是。して。走り。期。して。飛。千鈞の怨を解。て。万方の愛を舉。  
されば。又。加。成。が。若。空。に。孤。見。負。す。も。例。の。孔。見。の。不。ある。う。て。ま。す。  
囊。中。既。よ。竭。て。り。ふ。と。せ。ん。ど。み。さん。ば。と。そ。め。と。火。死。て。虚。と。日。を  
送。る。が。若。生。再。生。と。枕。安。く。ね。づ。か。と。り。ん。所。往。這。奴。ホ。ジ。委。架。成。  
赴。く。と。埋。伏。と。矢。龜。よ。懷。る。物。を。奪。ひ。そ。う。これ。を。郡。司。主。従。よ。進。じ。  
言。吉。派。結果。ゆ。こ。ま。よ。半。捷。経。ゆ。と。て。竊。よ。遲。也。と。商。議。し。そ。の。曉。  
脅。ふ。馮。司。ひ。城。り。て。面。と。裏。を。と。そ。を。在。門。よ。本。か。く。て。門。の。す。き。絆。ひ。く。  
見。今。肉。肩。の。長。が。令。敷。懷。す。て。ヨ。カ。ヌ。が。封。く。ト。テ。穴。竊。開。ニ。イ。ク。だ。く。い。  
ひ。る。陰。で。彼。う。先。へ。走。り。拔。掘。鍼。巔。ふ。待。従。ふ。日。の。を。や。暮。きて。入。跡。希。て。  
や。と。あ。よ。バ。自。肩。の。景。吉。放。つ。と。と。の。と。外。因。ゆ。せ。ぞ。歩。の。運。び。と  
り。そ。う。せ。ど。も。掘。鍼。巔。を。詫。き。と。見。生。憎。よ。因。ひ。入。つ。馮。司。ひ。遙。よ。そ。く。と  
か。そ。本。彦。を。生。て。め。た。ら。ぐ。す。う。に。く。足。と。飛。て。破。と。蹴。る。あ。う。ぐ。と。白。肩。の。  
こ。う。と。ぬ。る。老。人。金。を。左。へ。過。退。く。ぶ。蹴。られ。る。ぐ。む。立。草。よ。倒。ま。と。  
あ。れ。盜。賊。と。高。く。叫。び。杖。を。す。て。殺。え。と。き。く。に。馮。司。ひ。豫。て。縛。り。よ。近。属。  
信。濃。路。よ。この。下。へ。來。て。へ。い。手。面。と。縛。ぐ。る。荒。平。霜。平。と。り。ふ。野。伏。を  
僱。ひ。う。要。緊。の。時。方。人。よ。起。り。う。件。の。野。伏。の。向。肩。が。後。方。よ。う。忽。然。と  
走。り。出。て。左。衣。の。腕。を。楚。と。拿。ま。と。而。て。直。よ。手。と。沈。ま。と。振。放。え。と。焦。躁。間。  
馮。司。ひ。ゆ。う。と。自。肩。が。懷。へ。い。手。入。て。金。残。ア。る。と。奪。ひ。と。う。是。不。信。と。逃  
去。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。あ。る。  
されば。跡。を。の。を。逃。亡。う。続。て。追。へ。易。け。ま。ど。の。賊。へ。三。人。ア。れ。ち。草。だ。

色を吹瓶と求ふが後悔そよなちに。とひして塵うち拂ひまつても  
彼令紙こそて奪ひもれへ。若き後故のに。ふせほ。となひひて不傳  
食あひ更缺ぬ老人のひども旅宿のか所。懷まひた夜の山。かたわら  
あづれば遙々踵を回て。二丈川へ。カ。番場の御術のいやうみて。蕉火  
あ照じつあるのあつた。送はんと遠く。誰と向ばと熱の景を  
ひとく面みけまどり。ひで己べたとく。往。やう蕉火を銷滅させ。並松の  
薙よ聚ひ。賊は金を奪れ。の爲。侍を告げ。け。ば。与熱の病。額を  
折や。まで緯の翻鄙。も。おぞきを。余の。あと不なり。歎く不  
すほ。和殿が先めに下る。途を下るのみ。ゆく。と。さく。ひしきば。  
湯葉を。あべて。ちあく。飲。初燈の。そ火を。下。追つんと。來。みけれ。  
兎を。と。ひ。羊を。亡。て。牢を。補。猿よ異の。そ。アガ。おも。晚うた。

和殿ひりふらす。當今の社役は。草堂を。ひむ。彼ひま。学乃  
賢入る。金を。化。失。主。惜。む。仰。可。惜。と。の。こと。喪。乃  
ち。あ。遂。生。づ。ま。だ。只。この夫婦。へ。惜。し。別。よ。善。巧。方。便。あ。り。や。こ。密。め。れ  
向。が。向。肩。へ。塵。ろ。ん。捨。て。後。方。を。こ。ん。や。ア。今。蘿。食。そ。青。瓶。の。大。人。諭。斷。よ  
私。ア。邪。正。と。照。じ。り。ア。淨。玻。璃。の。鏡。の。ど。賞。罰。の。正。ア。瑞。羅。王。ア  
猪。あ。ど。か。の。大。人。を。こ。の。春。の。園。の。東。西。を。巡。歷。て。蘿。食。そ。在。さ。ど。と。そ  
藤。綱。り。こ。ふ。ネ。す。さ。ざ。が。若。き。生。り。や。せ。ん。方。仮。の。種。と。失。ひ。て。き。別。ふ  
ゆ。ほ。ゆ。ゆ。の。ど。化。雅。ゆ。脚。力。り。そ。縁。曲。と。ひ。遣。金。石。の。角。ま。が。日。ア。猪  
種。あ。ん。轍。の。朝。の。泥。よ。吻。く。火。急。の。み。あ。それ。も。ひ。ん。し。ん。そ。や。う。ど。と  
や。ゆ。て。三。千。両。の。金。と。廻。へ。ま。返。す。と。月。を。よ。づ。家。う。り。令。ま。す。は。て。進。す  
え。ど。う。が。与。熱。ひ。う。ら。鳥。ひ。あ。づ。バ。翌。そ。野。上。へ。ゆ。く。つ。家。を。活。却。く。

それとも物是ど。岐岨の櫛廬と售ぬべ。さりとも自他よ。お六  
あれ告は。集この件のひやく。入層の憂苦氣きて長ひ病著み  
たりやせん。うるま。と義よ貴む見もかふ難一あいつ二夫へまう  
ゆうて。まえくもあくまく。若者が助命の工取。安處へをまほじく。  
物夥進とせ。不快く受もじ。大々々更りぬべ。こう易くもひく。  
とまにやうて慰ま。かひきをすと起て恩入木と拜もう。些の春ゆ  
かこすりけり。かくと歎き向眉と襟一あわせり。次の日又お六ふ  
りはす。けのちの報きのよく。すくふ。これも又假蘇民よこへ来て  
日ごろ猶す。婢だのひづく。とこもるてらす。ようてけふ。  
ぞくゆく。と勅る。痛しけど。苦ぬ冥うが戒ふこそ。とぞく  
お詫て帶絆びそえ。自眉の長としほ立。野上を渡て走つ。やく  
既ふ三里にして。柏原えそく。憩よ。茶店あれば尻を。自眉と宿山ゆく。  
家と舊事と紙相潭よ。宿よ。莊客とお聲へな。蓑と脛員。笠と引捨。三人  
いそがしげか。醒井のかく過る。茶店の老女とて。長久寺の  
侍が立ち。石の廻りをうり。尻うちがて憩ひ。茶を飲み。と呼まば。  
俊る。一個が立。草のうか。景物の小野の術術。刑罪人のゆ。彼が近く。  
梓川を。親族の男女を教へ。うりのぞよ。よくて。妻。夫。翁。子。  
只今彼外。あく。ゆふこそ。と回答。も果。追縁。と。走ま。与妻。長。妻。  
あり。已。おとく。若。す。け。す。又。の。清。ふ。る。と。秋。こ。と。彼。外。却。を。い。

遺すと、言の聲死はざるへ送憾。秀りとりそがせば、白眉も春月を殺す。  
さよべ五脣傳へニ支川へまうあなてのり死をちよと告矣や。とくに、  
ひと掉ちゆきその性雄としけれども、原是女流のゆうれい。哀傷ふと  
自害つて、じよんあつて痛くたるのうじや。従よみごとあくびとも、今承は  
遠さべ景音が黄泉の障うとうぬ。あほして蓋うれひうれい。後ふ告  
とも運せじと禁まく白眉へ有理と考てわめともふ。あじの老をよ辞  
ワれ間道とりと見て喘み小野の衝衝と走り下る。まひかへとまよ被  
与敷肩からぬしより。肩づる後のミヌをれて、ひとこまうじく参居候。  
肉動き胸裏きらわひとて平らすだ。あぐれ慰むともがみとて。その日  
未の比ひよひどう門辺す立て。おらふ身へ仰とう。瞻仰うそものさをまひ。  
日出のうき小雨ア。定あるれ世よ形まるれ。身ゆめりてと袖袂後くも

あひ子あぬ糊張の衣の跡のころ。門の板戸ふみをかけて入ると  
おこそあれ。里の総角牛う童が。五人三入つれうちて。番場のかうえまう  
ほ。七よどあみ。この小父ムが小野の衝衝と。今斬多紙元せんざと  
ゆびうけてや。背教とちゆく吐嗟と目送う。惘然とて忽だよ尻尾よ撲地  
と轉輶。弗と断離。髻髪よ雲の長鬢。鬢乱。雲ゆゑ又下鏡りをくと。  
降る際兩よ面とくられ。岸破と起つ小膝を衝とて。目上よすく。髪のをれ  
モはづく。房と若よかに接て。肩搖かみと息を吻た。痛ふ哉哀ひうれ。  
ねじ白眉ふうの翁の戒知も終よどぎ。口づけへ今まで。又の下ふ。ひと  
られゆふん。夫婦の寢情ハ在ともう。それ異國へ生別。これ、眼前をうけ  
三平の憂エと。づきひとうふ被うる歎と。胸と抱て歎き。肩不重す  
ひ髪のとゑを。楚と握て右ひ引。とを嚼つ咽を潤す。振離アねがま

暮。天の景。小え。ようち。京。改。るひの外。か日。の高。え。よや。群。集。よ。遅。れ  
譽。固。よ。禁。り。よ。とも。良。人。の。今。取。み。言。葉。を。く。い。傳。通。路。の。要。と。  
消。す。ん。あ。る。り。あ。る。り。と。ひ。ど。う。こ。そ。て。氣。を。廢。し。直。躬。と。立。ハ。遙。す。と。  
傍。登。足。と。踏。固。め。き。ま。だ。い。と。で。蹠。こ。と。輶。び。て。へ。起。起。て。ふ。持。び。福。は。松。木。  
門。松。久。礼。番。場。所。原。越。せ。け。べ。一。里。不。足。ふ。ぬ。小。野。の。衝。衝。斧。も。研。す。ぐ。  
捐。鍼。巔。一。心。凝。て。も。この。日。未。憂。苦。食。を。断。ぐ。山路。よ。疲。勞。眼。眩。き。  
忽。然。足。を。踏。み。づ。して。左。ひ。の。谷。較。轍。と。矛。と。輶。び。て。ぞ。陷。り。ぬ。痛。い。う。邪。  
虎。令。の。女。人。三。す。息。絶。ま。ぐ。萬。事。休。畢。竟。お。六。が。存。亡。奈。何。そ。六。次。  
卷。よ。解。ワ。ア。翁。を。く。あ。り。ん。

青底藤綱摸稜案後集卷之四終

青底後編之五冊内  
新寫

